

新産業創出調査特別委員会会議記録

新産業創出調査特別委員長 郷右近 浩

- 1 日時
平成 25 年 9 月 4 日（水曜日）
午前 10 時 4 分開会、午前 10 時 24 分散会
- 2 場所
第 2 委員会室
- 3 出席委員
郷右近浩委員長、高橋孝眞副委員長、田村誠委員、大宮惇幸委員、五日市王委員、
柳村岩見委員、工藤勝子委員、後藤完委員、飯澤匡委員、久保孝喜委員、
佐々木茂光委員
- 4 欠席委員
なし
- 5 事務局職員
米内担当書記、伊藤担当書記
- 6 説明のため出席した者
なし
- 7 一般傍聴者
なし
- 8 会議に付した事件
委員会の意見の取りまとめについて
- 9 議事の内容

○郷右近浩委員長 おはようございます。ただいまから新産業創出調査特別委員会を開会いたします。

なお、柳村岩見委員は少々遅れるとのことでありますので、御了承をお願いいたします。

これより、本日の会議を開きます。本日は、お手元に配布いたしております日程により会議を行います。

当委員会は、本日の委員会が最終の委員会となろうかと思えます。

つきましては、委員会がこれまで調査して参りましたことについて、これまでの例によれば、9月の定例会で報告を行うこととなりますので、この際、意見の取りまとめを行いたいと思えます。

お手元に、これまでの調査経過を取りまとめた資料と、報告の骨子案を配布いたしておりますが、取りまとめにあたり、事務局に骨子案の概要を読み上げさせたいと思えますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○郷右近浩委員長 それでは、事務局お願いいたします。

○米内担当書記 それでは、新産業創出調査特別委員会の委員長報告骨子案について、その概要について、読み上げさせていただきます。

資料、A3の3ページものほうを御覧いただきたいと思います。付託事件でございますが、新たな雇用確保につながる新産業創出に関する調査、雇用を支える地域産業の新規展開等に関する調査について、1の委員会の開催状況でございます。

当委員会は平成23年9月定例会におきまして設置されました。これまで、9回にわたって委員会を開催いたしまして、先程の付託事件に係る調査に関しまして、その都度課題を設定しまして、調査を実施したところでございます。

まず参考人からの参考意見の聴取でございますが、国際リニアコライダーや海洋エネルギーに関する国際的研究拠点の形成、自動車産業分野における次世代自動車に対応した技術シーズの可能性、そして、産学官連携等による産業振興の取り組み等について、調査を実施しました。

次に現地調査でございますが、国際リニアコライダーに関しまして、国内研究施設の状況を把握するとともに、その地元受け入れ自治体の誘致の取り組みや、そのほか、次世代産業創出プロジェクトとしての、高付加価値コバルト合金を活用した医療機器製品化、あるいは産学官連携による企業への復旧支援の取り組み等に関する現地調査を実施したところでございます。

次に2の現状でございます。こちらの現状では、それぞれ経済指標として、主に製造品出荷額、あるいは雇用環境の指標等を掲げてございます。いずれにしましても、不安要素は依然として続いている状況にあるというこのような中、平成23年から平成25年の県の施策に関する県民意識調査におきまして、県民の皆様からは、高い付加価値や雇用を生み出す新たな産業の創出が引き続き期待されているということが、報告のほうで盛り込まれてございます。

次に2ページをお開き願います。3の課題でございます。平成21年度に策定しました、いわて県民計画の第2期アクションプラン平成23年度から平成26年度までの4年間に関する部分でございますが、この7つの政策に掲げております、産業創造県いわての実現を図る取り組みの中で、産業、雇用分野の次代につながる新たな産業の育成項目につきましては、7つの指標におきまして、達成、あるいは概ね達成となっているものの、現在、既存の産業を牽引するとともに、雇用の受け皿となる新たな産業の創出を図る必要があると、また、新たな産業を創出するうえで必要な科学技術に係る本県のポテンシャルとしましては、企業においては個々の優れた要素技術を有するものの、総合的な分野での実績が低調で、とりわけ、自動車関連産業においては、県内での部品調達が十分に進んでおらず、また、人材面では、イノベーションを進める高度技術や知識を有する人材が不足しているという状況にあり、さらに産学官連携におきましても、オール岩手として結集する共有ビジ

ョンが必要な状況となっている、これが課題でございます。

これらを踏まえまして、4の委員会の意見でございます。当委員会調査におきまして、その建設によりまして新たな産業の創出など今後大きな経済波及効果がもたらされること
が明らかとなりました国際科学技術研究拠点の形成に関する取り組みとしましては、一つ
目としまして、I L Cの本県への建設に当たって、今後政府におきまして建設に関する正
式表明、そして調査費等必要な予算措置を行うよう、引き続き強力に要請活動を行うと
ともに、県内におきましては、関係団体や地元企業との緊密な連携等情報共有を図りながら、
国際化を飛躍的に進めるなど、受入態勢の整備等に積極的に取り組むこと、また、I L C
とともに、国際科学技術研究拠点として誘致を目指しております、いわて三陸国際海洋再
生可能エネルギー研究拠点につきましても、復興途上の沿岸地域への経済波及効果が期待
されることから、その条件整備に全力で取り組むこと。

次に既存事業の新規展開に関する取り組みとしましては、一つ目としまして、自動車関
連産業におきまして、部品の地元調達率を高めるとともに、次世代自動車に対応した技術
シーズの発掘と研究開発支援を行うことや、あるいは県南部とともに、県北沿岸部の企業
の自動車関連産業への参入に向けたマッチングなどの取り組みを強化すること、2つ目と
しましては、産学官連携に向けた支援策を引き続き強化するとともに、3ページをお開き
願います。独立行政法人科学技術振興機構 J S T 復興促進センターによります、復興促進
プログラム等を活用しました、技術シーズの発掘と、育成のための産学共同研究を支援す
ること。

3つ目としまして、次世代産業分野におきましては、国内外の研究機関との連携、事業
化コーディネート、企業における人材育成等を推進しながら、コバルト合金生体新材料に
代表される、新素材供給等の取り組みを起点としまして、県内外企業における加工製品化
までの新たな産業クラスターの形成に向けた取り組みを強化すること。

次に人材育成に関する取り組みとしましては、大学などの教育機関等における情報共有
や連携を図って、高度技術人材の育成支援を強化していくこと、以上の項目につきまして、
本委員会として要望することとさせていただきます。

以上、概要につきまして、説明を終わらせていただきます。

○郷右近浩委員長 ありがとうございます。それでは、骨子案に関しまして、2年間の
感想も含めて、皆様から御意見を伺いたいと思います。

○久保幸喜委員 事務局の皆様には、大変ご苦勞様でございました。概ねこの骨子案につ
いては了とすところですが、2点付け加えたら良いのではないかと思います。2ペ
ージ目の委員会の意見のところ、最初のマルのところには、リニアコライダーに関わっ
ての意見が述べられていますが、ここで、自治体、市町村との連携という視点がちょっと
触れられていないような気がするのです。しかもそれがリニアコライダーの部分の3行
目にあるように関係団体や地元企業というように書いていますが、この場合の地元とい
うのは、まさにリニアコライダーの建設自治体のことなのか、あるいは県内の地元という意

味なのか、その辺も判然としませんし、ましてや周辺自治体も当然のことながら、県内自治体全てがそうなのですけど、一体的にオール岩手で取り組むということの方向性が出されているので、この関係団体や地元企業の地元というものを取ったうえで、関係団体や自治体、企業との、というふうな形で表現をしたほうが、よりこれまでの調査とマッチングしていくのではないかなと思います。これは意見であります。

それからさらに3枚目、真ん中辺の人材育成に関する取り組みの問題もそうなのですが、ここでも県行政としてのあり方を考えた場合に、自治体との連携ということが一番人材育成に関して大きな要素だと思うので、そここのところは県のイニシアティブというのはもちろんですけども、それぞれの自治体がささやかながらやっている人材育成の取り組みと、きちんとリンクさせるということ、もうちょっと踏み込んで、触れたほうが良いのではないかと、そういうふうな思ったところがございますので、意見として申し上げました。

○郷右近浩委員長 ありがとうございます。他に御意見ございませんでしょうか。

○柳村岩見委員 今朝は要望活動に同行いたしておりまして、時間内に終わるはずでしたが、遅刻をいたしました。委員長におわびを申し上げます。

国際リニアコライダーの国内候補地一本化ということを受けて、これから日本が国際的に我が国にということの要望も含めて、一体その一本化された岩手、宮城というのが、具体的に、ここで総論的には書いておりますけど、もう少し具体的に言ってあげたほうが、やるべきこと、住民の意識の醸成であるとかから始まって、環境整備と言葉一つで言いますけど、環境整備の中には研究者の受け入れ環境、というのも入るのか、それからまちづくりという環境も入るのか、ということなので、もうまちづくりとか、やっぱり受け入れのよく言われる教育機関であるとか医療機関であるとか、一部ここに書いておりますけども、そういった具体性を持ったほうが、今の時点ではよりベストではないかなと思います。

○郷右近浩委員長 ありがとうございます。只今、もう少し具体的にという意見もいただきましたが、他に皆様ございませんでしょうか。飯澤委員よろしいでしょうか。今、国際リニアコライダーの部分の話もあったものですから、飯澤委員の思いがあれば。

○飯澤匡委員 考えを今まとめていたところですが、一本化が図られて、今後やらなければならない課題がまだまだ山積しています。

そこで、当該候補地に選定された自治体として、これまで誘致に向けて当委員会でも調査をしてきたわけですが、先程の久保委員の発言にも触れますが、今後、一層、緊密な連携以上の情報共有だけではなくて、自ら積極的にコーディネーター、地元企業を束ねてどのような協力体制以上ができるかどうかというのを、やはり今まで以上に必要な場面も出てくるし、この調査委員会が目的とするのはILCの誘致だけではなくて、最終的にはこの地域がILCを軸として、経済活動が活発になり、子供たち、次世代に続く人たちが夢をもってこの地域にとどまり、世界最先端の技術に触れた、そういう意識の啓発のもとに、生活をしていくと、誇りを持つということが大事なのでありますので、次世代のことについて、取り組む項目をもう少し精査していただいたほうが、県議会の意思としても、四特

別委員会の中で設置された委員会としても、その意思が出るような形にしたほうがよろしいのではないかと思います。今のところは以上です。

○郷右近浩委員長 ありがとうございます。他に皆様のほうから、ございませんでしょうか。特に当委員会におきましては、本当に幅広い調査項目というか、新産業の創出という大きな課題、そして大きなテーマであったわけですが、その中でやはり今回触れさせていただいておりますが、マリンサイエンスの考え方もあり、また、それに伴った視察等も行って来たというふうに思いますが、その点について、沿岸地区の委員の方々からも何かこの際あれば、と思いがいかでしょうか。この位の触れ方でよろしいでしょうか。

○工藤勝子委員 非常にまとまっていると私も評価したいと思っておりますけれども、例えば新産業という形の中で国際リニアコライダーとか海洋再生可能エネルギー関係に特化してきた気がするのですが、やはりその中で、岩手県全体を見たときに、県北沿岸振興の部分ですね、もうちょっとその辺で新しい自動車産業への参入と書いていますけれど、そういう話ではなくて、もう少し県北沿岸振興にかけて何を持って、そういうものが、もう少し入ってきたほうが、岩手県全体から考えたときに、いいのではないかなと。じゃあ何でと言われてもなかなか出てこないのですが、食産業部分だとか、そういうものをもう少し触れていただければいいのかなと思っておりました。

多分この自動車産業を県北にとっても、私はかなり無理があるのではないかなと思うのですよね。そうするとやはり県南のほうに自動車産業というのは特化して、国際リニアコライダーもそうですので、何となく県北沿岸振興のほうで、国際リニアコライダーも、うちのことじゃないよね、という感じで取られているのですよね。なぜかっていうと、遠野もそうなのですよ、他の事のように取られている、建設業の人たちはそうでもないのですが、一般の人たちはそうなので、やはりもう少しですね、岩手県全体を網羅したみたいな形の中の、新産業という形の中で、県北沿岸振興にもっと光を当てるみたいな提言ができればいいのではないかなと思っておりました。以上です。

○郷右近浩委員長 ありがとうございます。この2年間に調査した事項、主にその点について取りまとめていくという部分で、しかしながらやはりそうした今後の取り組みについてもさらに盛り込めるように、事務局と考えて参りたいと思います。

他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、只今の御意見を参考にしながら、報告を行いたいと思います。詳細につきましては、当職に御一任願いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めさよう決定いたしました。それでは、先ほども申し上げましたが、本委員会の調査について、本日をもって最後になるかと思っておりますので、この際、一言御挨拶を申し上げさせていただきたいと思っております。

当委員会は、震災後の平成23年9月の定例会において設置されて以来、本日に至るまで、

終始、熱心に皆様方に調査を積み重ねていただき、所期の目的を達成できたのではないかと考えてございます。

また、私も皆様方にお支えいただきながら、この委員長の重責を全うすることができたことを、心より御礼申し上げます。これもひとえに、委員の皆様方の御支援と御協力の賜物と存じ上げておりますので、この場をお借りいたしまして、皆様に厚く御礼を申し上げる次第であります。本当にどうもありがとうございました。

以上をもって、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。